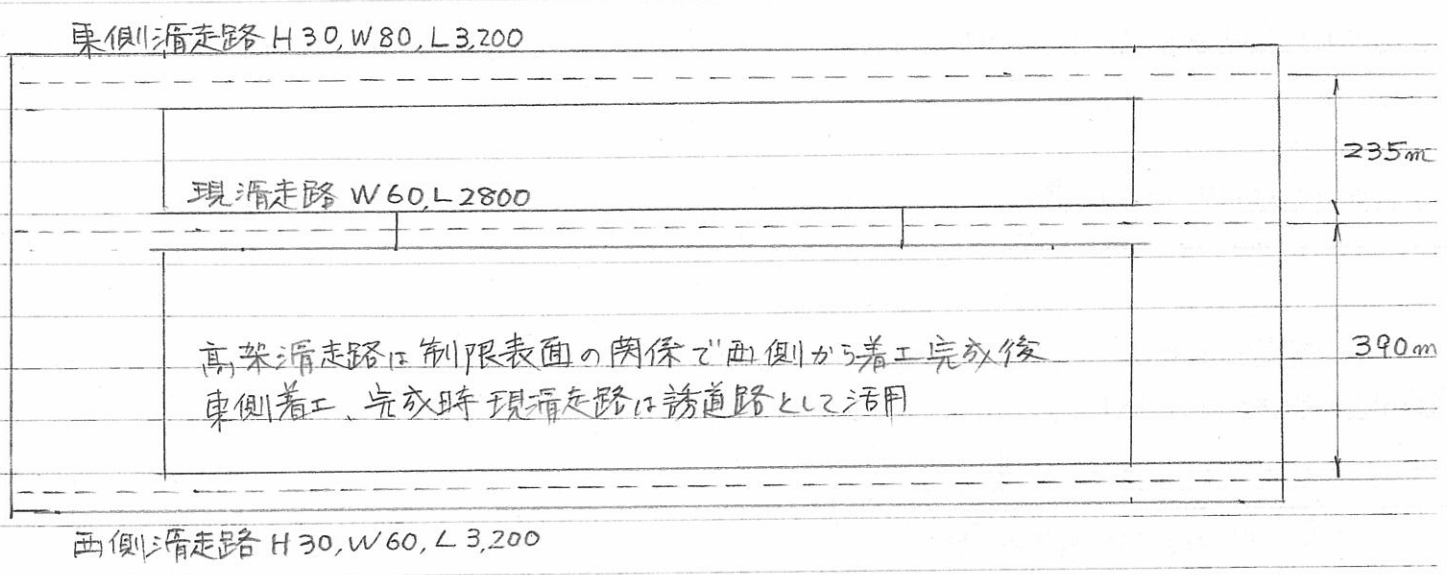


21世紀の空港にふさわしい、省エネ、省資源の近未来都市空港のモデルとなる様、土木、建築、I.T.などハイテク技術と結集する。

コンセプト

- 1 空港周辺の環境を破壊せず、空港機能の倍増を目指す
- 2 空港建設はもとより完成後もCO<sub>2</sub>排出量と最小におさえる。
- 3 空港機能ならびに利便性の向上はもとより、投資額以上の経済的波及効果を創出する。

現空港と運用しつゝ高架型滑走路を建設する



高架式滑走路の特徴

- クロスパラレル 新設滑走路精密進入方式 H30, W80又は60, L3,200 x 2 空港処理能力 現行の2倍以上
- 国際線側に国内線ターミナルを一体化、地下鉄の分岐又は延伸
- 空港用地 北西及び南西 約10.9ha 拡張
- コントロールタワー 設置は制限表面の制約を受け為空港敷地外となる
- エプロン、駐機場は滑走路と上下に分岐する為拡大する
- 博多駅、天神地域の高さ制限が緩和され建築物の容積率が拡大する
- 地下ダム設置の場合、御笠川による洪水を制御し蓄えた水は中水道として活用

福岡空港立体概念図

